

# うちな uchina

南の島おきなわの  
心を伝える情報誌

[ Vol.10 ]  
2014.12-2015.1月号

定価 802 円

INTERIOR  
and  
ZAKKA  
SHOP GUIDE

特集

## あたら しい 沖繩 の家

近頃、気になる  
あのお家を訪ねてみました。

沖繩の歴史的建造物／沖繩生まれの建築資材 花ブロック  
池中尚子さんのアースバッグハウス／亀谷一家の赤瓦の古民家

【第2特集】 忘新年会特集

琉球茶房 あしびうな／Gallery&Cafe BiGASURI  
沖繩料理居酒屋 抱瓶／LOISIR HOTEL NAHA／琉球温泉 瀬長島ホテル

0000-112541-0001 0000-112541-0001 0000-112541-0001 0000-112541-0001 0000-112541-0001





House of new okinawa

非日常を楽しむ、  
自然と一体化した家

けんちくせつけいこうぼう ばらや しまぶくろかつや  
建築設計工房 paraya  
島袋勝也

住/今帰仁村字与那嶺223-1  
☎ 0980-56-2955  
paraya@viola.ocn.ne.jp

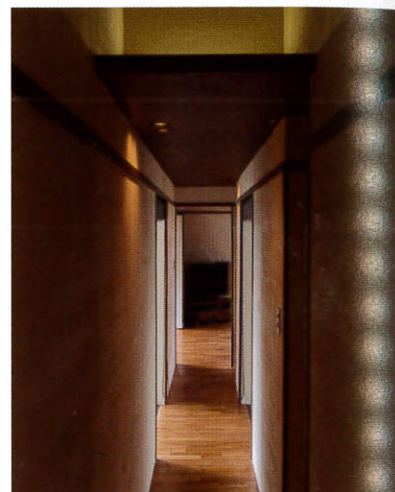
リビングの南側の大開口は海に臨む。窓によって異なる風景が楽しめるように工夫されている。屋根の木組みを現して、より開放感のある空間に。

**島**に渡り、くねくねとした上り坂を辿ると、ほどなく赤瓦屋根の澤田邸が見えてくる。敷地内で一番眺めのよい場所にあるリビング。その開口部から外へ、続き間のようなデッキスペースが広がる。この家はセカンドハウスということだが、「非日常感」を楽しみたい、という澤田家の希望もあり、建築士の島袋勝也さんは、内と外があいまいな、島の自然と一体化した家を実現させた。段差のある敷地に沿うように、前面にリビングやキッチンなどのパブリックスペースを配し、一段高くなった背面にプライベートスペースを置くことで、どのスペースからも島の自然が楽しめるようになっていく。パブリックスペースから一段下がった場所にはゲスト棟があり、そこからも海の景色が楽しめ、さらに母屋の視界を遮

らないという配置が絶妙だ。構造はコンクリートと木の混構造。リビングや個室部分は天井を設けず、ダイナミックな木組みを見せることで開放感を高めている。澤田さんの家づくりを手伝うことになったとき、土地の紹介者から「景観を壊すようなものは作らないように」と強く念を押されたという島袋さん。いずれは本土から移住し、地域に溶け込んで暮らしたいと考えている澤田さんも同じ気持ちだった。そこで島袋さんは赤瓦屋根や花ブロック、琉球石灰岩の石垣など、沖縄を感じさせる素材を積極的に取り入れ、庭の植栽もブーゲンビリアやサルスベリ、シークワーサーなど、沖縄でお馴染みの植物たちで構成した。玄関はパブリックスペースの裏にあり、そこから海は見えない。アプローチを辿り、玄関に入ると、細長い廊下が左右に伸びていて、左側はプライベート、右側はパブリックスペースに続く。ほの暗い廊下を右に進んだ先で、光と風をふんだんに取り入れたリビングに出会うという演出が効果的だ。フルオープンな開口部から続くデッキスペースは、「内と外を分けることなく、リビングの一部として使ってほしい」と島袋さん。澤田さんは、自然とともにある暮らしに、とても満足しているという。



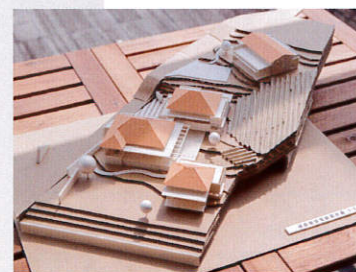
広々としたデッキスペースをアウトドアリビングとして活用。リビングの東側の窓からは自然の岩と緑の作る景観が楽しめる。



上/西日の差す側には小窓を配置。下/廊下からリビングへ。陰影のある空間は楽しく、美しい。



建築士の島袋勝也さん。家づくりでは「風景とのつながり」を大切にしているとのこと。



模型から地形の生かし方がわかる。一番後ろの建物は将来の提案として添えたもの。



外観。地域との交流を大切にしたいと、擁壁や石垣は高さを抑えている。